

「誰一人取り残さない」「すべてのいのち輝く」ソフトレガシーをつくるために

大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ(SSI)
SSI 長 堂目 卓生

1. はじめに

私たちは、2015年にSDGsを宣言し、「だれ一人取り残さない」を実現すると誓いました。大阪・関西万博では、SDGs万博を標榜し、“すべての”「いのちが輝く社会」を目指していると考えています。これは人類が生まれて以来のチャレンジですが、私たちみんながあきらめず、考え、ソフトレガシーをつくり続けることが大切です。

2. 「いのち会議」について

SSIの理念と活動にもとづき、大阪大学は、2023年3月24日、関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所とともに発起人となって、広く市民が対話する場として「いのち会議」を立ち上げました。「いのち会議」は、「いのち」とは何か、「輝く」とはどういうことを問いつつ、SDGsの達成に向け、さらにはその後の社会も見据え、「すべてのいのちが輝く」ために何をなすべきかを、あらゆる境を越えて考え、議論し、行動につなげていく場です。産官学民の様々な分野の多くの人々が集まり、グローバルな規模での共創によって、2025年万博において「いのち宣言」を世界に発信します。

「いのち会議」では、年に何度かの象徴的な会合を行うとともに、産官学民連携のもと、SDGsごと、あるいは課題ごとに「アクションパネル」という分科会を立上げ、目標達成の具体的な活動を通じて、それぞれの目標がどのように「いのちの輝き」につながるかを明らかにします。これは、全体会合のインプットにもなります。

さらには、より多くの人々の声を反映するために、万博の教育プログラム(ジュニア EXPO)からのアイデアを含む、若者やこどもたちも含めた「声」を集め、見落とされている課題、隠された課題を発掘し、AIなども活用して「いのち宣言」の策定やアクションパネルの取り組みにつなげていきます。

※SSI ホームページ：<https://www.ssi.osaka-u.ac.jp/>



3. 「いのち会議」の3つの活動

「いのち会議」の主な活動は「いのちの声」、「アクションパネル」、そして「いのち宣言」の3つです。それぞれ、「聞く」、「話す・考える・行う」、「言葉にする」という役割をもちます。「いのち会議」はこれら3つの活動を螺旋的に循環させながら、SDGs、Post SDGsを通じて、2050年に「すべてのいのちが輝く社会」を実現することを目指します。(図1: 「いのち会議」の3つの活動)

3.1. 「いのちの声」—聞く

私たちは、アクションを起こす前にまず人びとの声、特に脆弱(vulnerable)な状況にある人びとの声を聞かなくてはなりません。大きな声だけでなく、小さな声、声なき声を聞いた上で行動しなければ、SDGs が唱える「誰一人取り残さない」には至らないでしょう。

「いのちの声」は、自分が望むことや未来の社会に関して、世代や性差、民族や国籍等、あらゆる境を超えて、若者や子どもたちも含めた小さな声をアンケートなどを使って聞きます。文字で表現されるものだけではなく、絵や動画等、様々な形の作品によって表現された声を集めます。

次のような質問を国内外の人びとに問う活動をはじめました。

1. あなたは、どんな社会（または世界）を望みますか？
2. それはどうしてですか？
3. そんな社会（または世界）のために、あなたは何をしたいと思いますか？

集められた声は整理・分析した上で、ホームページ等に掲載する予定です。

※ 「いのち会議」ホームページ：

<https://inochi-forum.org/>



※ 「いのちの声」の募集 URL：

<https://inochi-forum.org/action-report/voice/questionnaire/>



3.2. 「アクションパネル」—話す・考える・行う

「アクションパネル」では、産官学民のメンバー、さらには大学生や高校生、中学生や小学生を含む若者や子どもたちとも一緒になって、DGsに関連するテーマ、あるいは SDGs には含まれない+ Beyond のテーマごとに活動を進め、それぞれのテーマの解決や達成、新たな課題の発見等を進めます。現在、以下の12のテーマに分かれ、中之島センター5階の「いのち共感ひろば」を拠点に活動しています。

1. 医療・福祉
2. 教育・子ども
3. 経済・雇用・貧困
4. 街づくり・防災
5. 食・農業
6. 多様性・包摂
7. 平和・人権
8. エネルギー・気候変動
9. 資源循環
10. 環境・生物多様性
11. アート・文化・スポーツ
12. SDGs+Beyond

今まで 50 回以上のアクションパネルを実施しました。その様子をホームページに掲載していますのでご覧ください。

<https://inochi-forum.org/action-report/action-panel/>

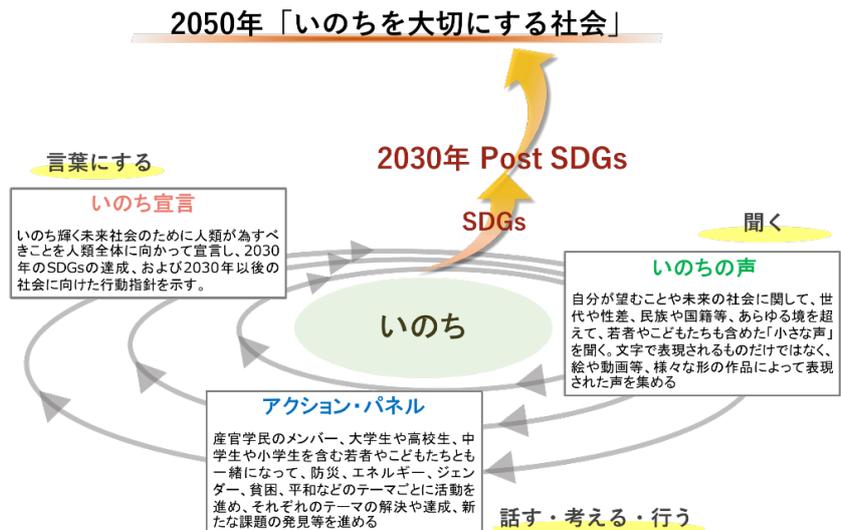


図1：「いのち会議」の3つの活動

3.2. 「いのち宣言」一言葉にする

「いのちの声」や「アクションパネル」の活動を踏まえ、すべてのいのちが輝く未来のために人類が為すべきことを人類全体に向かって宣言し、2030年のSDGsの達成、および2030年以後の社会に向けた行動指針を言葉にします。

「いのち宣言」は、「いのち」を「まもる」、「はぐくむ」、「つなぐ」、「かんじる」、「しる」という視点で発出します。「まもる」とは「さまざまな脅威から「いのち」をまもる。とくに、傷ついている「いのち」、弱められている「いのち」に向き合い、寄り添い、手を差し伸べる」です。「はぐくむ」とは「多種多様な「いのち」の秘めた力を見だし、「善く生きる」ために活かす。社会のしくみを整え、ひとりひとりの潜在能力を伸ばす。自然の恩みを持続可能な形で受ける」です。「つなぐ」は「様々な差別や偏見、分断を乗り越え、敵意のない世界を実現する。自然と共生し、全体がひとつの大きな「いのち」であることに気づく。過去、現在、未来へと「いのち」をつなぎ、大きな「いのち」を持続させる」ということです。(図2:「いのち宣言」の枠組み)



図2:「いのち宣言」の枠組み

「まもる、はぐくむ、つなぐ」は「善を為す」アクションですが、人間が行動を起こすためには、まもりたいもの、はぐくみたいもの、つなぎたいものを感じなければなりません。宣言では、「いのち」を「かんじる」、つまり「人や自然と出会い、それぞれの「いのち」を感じる。「いのち」のはかなさや傷つきやすさを感じ、そうであるがゆえに、「いのち」の尊さや喜び、秘められた輝きや価値を感じる」という項目を設けます。さらに、アクションしながら、「いのち」の本質を「しる」ということも必要です。宣言では、「いのち」のみなもと、「いのち」を成り立たせているもの、「いのち」が向かっているところを、科学、哲学、宗教だけでなく、さまざまな経験を通じて知り、生かされていることの意味を知る」という項目を立てます。

現在、このような大きな枠組みのもとで、アクションパネルに登壇してくださった方々、SSI の活動に協力してくださった方々を中心に、2050 年におけたアクションプランを依頼し、いただいた提言をホームページに掲載しています。100 の提言をいただくことを目指し、その提言内容をもとに宣言をまとめる予定です。

<https://inochi-forum.org/declaration-articles/>



4. テーマソング「いのち／INOCHI」

「いのち宣言」の前文として図 3 のような詩を考えています。

実はこの詞に、一般社団法人 Feel&Sense の橋本昌彦さんが曲をつけてくださり、「いのち会議」のテーマソング「いのち／INOCHI」となりました。今後はこの歌を通じて「いのち会議」の理念を世界に広めてまいります。

<https://inochi-forum.org/action-report/general-event/theme-song/>



私たちに与えられた かけがえのないこのいのち
はかなくて 傷つきやすく 時のなかで 変わっていく
どもないのちも 輝きを秘め
すべてのいのちは つながっている
ひとつ ひとつの いのちを
まもり はぐくみ つないでいこう
秘めた輝きを ときはなとう
生きている 意味をしろ
いのちのみなもとに かえろう

図 3：いのちの詞

5. 催事「いのち宣言フェスティバル」

2025 年 10 月 11 日、万博会場の「フェスティバル・ステーション」で「いのち宣言フェスティバル」を開催し、「いのち宣言」を発出します。フェスティバルでは、宣言を発出するだけでなく、若者も含む多様な参加者が今後のアクション等について発表し、議論するトークセッションを実施します。また、テーマソング「いのち／INOCHI」をはじめとして、「いのち会議」の理念を象徴するような合唱・音楽・踊り等により、参加者が共感し、ひとりひとりが「いのち」に向き合い、万博会期後の行動につなげていく契機とします。

「いのち宣言」はゴールではありません。「いのち会議」は、2025 年以後、「いのち宣言」を新たな出発点として人びとの思いと行動のネットワークをさらに広げ、2030 年の SDGs の達成、そして 2030 年以後の新たなゴールの策定に向けたグローバルなムーブメントを起こす活動を続けていきます。SSI は、大阪大学内の組織として「いのち会議」とともにムーブメントを担ってまいります。